

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。
この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院
で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問
い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない
場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	膵癌の術後再発と生物学的切除可能境界に関する後ろ向き研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 肝胆膵・乳腺外科学講座 医員 坂本明優
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2027 年 12 月 31 日
対象となる方	2009 年 1 月から 2024 年 12 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち膵癌と診断された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、病理検査データ、治療状況 等
研究の概要 (目的・方法)	膵癌は最も悪性度の高い癌のひとつです。手術を行い、治癒切除を行っても術後早期に再発する例も少なくありません。本邦では膵癌の手術における解剖学的な切除可能性として Resectable (R), Borderline resectable(BR), Unresectable(UR)として手術によって腫瘍が取り切れるかどうか定義されています。近年、血液検査の腫瘍マーカーなどによる生物学的因子による生物学的切除可能境界 (Biological BR) が提唱されています。具体的には、がん細胞が全身にひろがっているため、切除を行ってもすぐに再発してしまう状態のことをいいます。本研究では術前の腫瘍マーカーや画像検査から生物学的切除可能境界について検討します。 本研究では膵癌に対して手術を施行された患者さんを対象に、手術前の血液検査と術後の再発などの関連について検討します。本研究によって患者さんの治療成績を向上できる可能性があります。

個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。提供先が外国の研究機関や外国の企業の場合には、その国での個人情報の保護規定が定められていることを確認した上で、個人を特定できる情報を含まない形で提供します。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院肝胆膵・乳腺外科 坂本明優 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5327